

市川記念会の政治セミナーを受講し、
今春の選挙に臨んだ20人が集まったの報告集会でした。

大きな収穫は、女性が1人もいなかった福井県議会での細川さんの当選。
細川さんは、市議時代からセミナーに通っておられました。
原発を抱えた福井県で、正しい情報開示を求めていく決意表明。
県議会でのひとり会派はなかなか大変だと思いますが、しがらみのない強みを
発揮して欲しいと思います。何より、県民のために。

栃木県議会でも、記念会で学んだ設楽さんが当選。
シングルマザーとして、子育てや女性の自立、医療制度などにじっくり
取り組みたいと言います。
これからのお二人の活動が楽しみです。

首都圏では、地方議会でも政党所属が増えたこと、震災の影響で、
選挙戦そのものが忌避されるかのような「自粛」があったことが報告されました。
例えば、「ノー街宣車」。
選挙はお祭りではないし、候補者として政策を述べる機会です。
市域面積の少ないところはいざ知らず、1週間の間に廻りきれないことも
ありましょう。
また、新人にとっては「じゃ、どうやって訴えるの…」です。

私の結論は、
もともと、街宣車という手段が妥当かどうか…を考えることが必要。
もっと合理的かつ有効なやり方があるはず。
やかましい街宣車には、有権者は、もともと疑問を
感じていたんじゃないでしょうか。
公職選挙法で、これに変わる手段を考える時期だと思います。

昔は行われていた「立会い演説会」をこそ復活させるべきです。
有権者には、各候補者を直接判断できる機会を保障すべきです。
スピーチを聞けば、一定の判断・評価はできましょう。
公平性・平等性を担保した運営方法はいくらでもあります。

セミナー参加者は、それぞれの活動形態、持ち味に合った対処でしたが、
ほとんど全員が、街頭演説を重ねた！！ これに尽きます。
直接、語りかける。直接、有権者の意見を聴く。
私は、これが原点だと思っています。
そんなこんなをやりとりする1泊2日の研修でした。